

断水と節水

私はハンドボール部に入っています。練習ではたくさん走るの、たくさん汗をかきま
す。そうすると、もちろんのどがとても渇き
ます。そんなときに冷たくておいしい水をゴ
クゴクと飲むと、力がわいてきて、しんどい
練習でもがんばることができません。いつも水
を飲む瞬間に大げさかもしれませんが、こん
なにたくさん水を飲めて幸せだなと感じます。
一緒に練習をがんばっている友達も私と同じ
ように感じているかなとも思います。このよ
うに、水は私達のパワーの源であり、私達に
必要とされています。

そんな水がもし、少ししか使えないようにな
ったらどうなるのだろうかと考えました。私
はそのような経験をしたことがないので、具
体的にイメージできませんでした。なので、
母に聞いてみました。すると、母は

生駒市立上中学校 三年

中井 真穂

「そういえば、お母さんが子どもの頃には、
断水はよくあったよ。最近では、お姉ちゃん
がまだ幼稚園に入りたてぐらいの頃に雨があ
まり降らない夏があつて、断水があつたんだ
よ。」

と、教えてくれました。姉とは年齢が十歳離
れていますから、けっこう前ですが、姉がも
う生まれていた時となると身近に感じました。
断水という言葉は、実はあまりなじみがあ
りませんでした。辞書で調べてみると、断水
とは主に上水道の送水が停止すること、とあ
りました。上水道の水とは水道管を通じて蛇
口から出てくる水のことです。これらは飲料
水や調理用などとして使われるため、無いと
とても困ります。母によると、断水がひんぱ
んにあった頃は、町のいたるところに「節水
に心がけよう」というポスターが貼つてあつ

たり、学校や駅などの公共の水道にも「節水」と書いたシールが貼られていたそうです。今でも「節水に心がけよう」とは言われていますが、シャワーの水を出しっぱなしにしないなどの簡単なことしかやっていない人が多いのではないのでしょうか。私もそのうちの一人です。でも、そんなことだけでは、断水がよくあった頃では節水しているとは言えなかったのではないかと思えます。なので、どのような節水をしていたのか、と母に尋ねました。

「お風呂の浴槽の残り湯を使つたと思うよ。例えば、洗濯に使つたり、お姉ちゃんが遊ぶ幼児用のプールの代わりにお風呂で遊ばせたりしていたよ。その他にも植木の水やりにも使っていたよ。」

と、母は教えてくれました。これにはなるほど、と思いましたが。少し工夫をすれば、流して捨ててしまうような水をいろいろなことに活用できるのだなと思えました。このように小さなことでも、水をムダにしないようにするためにはどうすれば良いかと考えれば、節水が行動に移せるのだと思います。

今、私達はなかなか水不足で困るといふことがありません。水道の蛇口をひねれば、きれいでおいしい水が簡単に出てくるので、水の有り難さを十分に分かっていないと思います。私達が毎日使っている水道水が断水することはがなく、安定して私達に届けられるためには、私達の税金などの多くの費用と、多くの人の労働力が使われているのです。その事を私達ひとりひとりが理解して、日常生活の中で、水が豊かに使えるという事に感謝の気持ちを持って、節水に心がける事が私達にできる小さいけれども、大切な行動なのではないかと思えます。